

# 会 議 録

## 1. 会議名

第5回仙北地域協議会

## 2. 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域枠予算の執行について（公開）

その他（公開）

(1) 学童保育について

(2) 払田柵跡「ガイダンス」への増築について

## 3. 開催日時

平成20年3月26日（水） 午前10時より

## 4. 開催場所

仙北庁舎「第1会議室」

## 5. 傍聴人の数

0人

## 6. 出席したものの氏名

委 員 : 佐藤力哉、熊谷政子、池田佐喜男、池田武、大澤隆夫、黒澤三郎、  
小林千歳、小松田有佳、佐々木忠雄、佐藤昇、進藤豊和、竹村正資、  
千葉嗣助、茂木保治  
(委員14名の出席、欠席4名)

大 仙 市 : 久米副市長、小松総合政策課長、総合政策課北野主幹

仙北総合支所 : 川越支所長、後藤地域振興課長、佐藤建設課長、鈴木農林振興課長、  
田口市民課長、小松教育分室長、健康増進センター仙北分室塩谷主幹  
地域振興課熊谷参事、同課皆川主幹、同課池田主事

## 7. 発言内容

後藤地域振興課長

【開会】

小柳委員、進藤勇吉委員、戸澤龍悦委員、原松男委員の4名から欠席の届けがありますのでご報告します。

第5回仙北地域協議会の開会を宣告

## 会 長

### 【会長あいさつ】

皆さん、おはようございます。今日は年度末の大変忙しい中、久米副市長をはじめとする多くの職員の皆さんから参加していただきありがとうございます。

今朝のさきがけ新聞を見て、結構大きな規模の異動だと感じました。いま、出席されている職員の皆さんの中にも退職や異動される方もいらっしゃるようで、寂しい思いもするなあという気持ちです。

さて、昨日、地域協議会でも後援しました春休み親子映画鑑賞会は「マリと子犬の物語」を昼夜2回上映しまして、私は夜に行きました。映画の中で、親子の絆、兄妹の絆、家族の絆、地域住民の絆と、そして命の大切さを改めて思い知らされる思いがしました。昼は、多くの小学生、中学生が映画を鑑賞したということで、今殺伐とした凶悪な事件が起きる中、良い企画だったなあとあらためて思ったところです。上映にあたっていろいろ苦勞された実行委員会の皆さん、職員の皆さん、PTAの皆さん、多くの皆さんに感謝を申し上げます。

さて、今日の議事は、平成19年度の地域枠予算の事業執行状況、平成20年度の地域枠予算の執行方針、仙北地域振興計画策定状況のほか、久米副市長にも提言が若干ありますので、是非、協議会の検討をお聴きになるようお願いいたします。以上で、冒頭のあいさつとします。

## 後藤地域振興課長

どうも、ありがとうございました。続きまして、久米副市長が皆様にごあいさついたします

## 久米副市長

おはようございます。副市長の久米でございます。仙北地域協議会の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様には大仙市の合併以来、まちづくりの基本となる「住民との協働」の趣旨をご理解されまして、お忙しい中、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

大仙市は、地方分権時代に対応した、住民が安心して暮らせる地域をつくるために、8市町村による市町村合併を選択したところであり、新しい市として誕生してから、4年目を迎えたところでございます。地方自治体の自己決定・自己責任の強化が図られる中、いかに住民の声を施策に反映させるのが重要な課題であると考えております。市といたしましては、地方が地域の伝統文化を活かし、活力あるまちづくりを進めるため、旧市町村毎に地域自治区を設置しまして、地域協議会を設けることを選択し、各地域協議会の皆様には活発な活動をしていただいております。

さらに、「市政は市民のために」を基本理念としまして、情報公開

や説明責任による開かれた市政の推進、さらには職員が常に市民の目線に立ちまして、現場に足を入れ、行政情報は出来るだけ分かりやすく市民に提供する体制づくりをするなど、常に社会の新しい動向や変化に敏感に対応することに心がけて、市民の目線で物事を考え、大仙市の総合計画の中で経営方針を示しております「住民との協働のまちづくり」に向けまして、職員と共に汗を流しながら、今後も取り組んでまいりたいと考えております。

平成20年度当初予算について申し上げますけれども、一般会計の予算総額は、412億7千万円あまりでありまして、前年度当初予算に比べ15億1千万円の減、率にして3.5パーセントの減となっております。また、特別会計予算は、23特別会計がございまして、合計で237億6千万円、企業会計予算については2事業で20億3千万円でございます。本市の予算全体では、670億7千万円となっております。前年度比較では13.2パーセントの減となっておりますが、将来を見据えた健全な行財政運営の確立を図ることを念頭においた予算となっております。

一方、大仙市が主要課題として取り組んでいるものに大きく三つの事項があります。少子高齢化や人口減少、多様化する市民ニーズに対応するため、民間の能力の活用並びに臨時雇用者への安定した職場の確保などを目的としまして「社会福祉施設等の法人化」が1つの課題でございます。もう一点は、人口減少や自家用車の普及による乗合バス路線の全部または一部廃止によります公共交通の空白地域の解消を目的とした「地域公共交通」対策でございます。さらには市の温泉施設等を運営している第三セクターの営業収益の伸び悩み等から経営状況が厳しい状況にあるため、抜本的な対応をすることを目的とした「第三セクターの経営改革」がありまして、将来に禍根を残すことのないよう対処してまいりたいと考えております。

このような状況のなか仙北地域におきます主要事業につきましては、芸術・文化の振興としまして国指定名勝池田氏庭園整備事業と土地買上事業、払田柵跡環境整備事業と払田柵跡土地買上事業を継続して実施いたします。

同じく継続事業であります上水道整備の戸地谷地区簡易水道事業については、取水施設及び浄・排水場の建設工事を実施する予定でございます。

また、東部地区水道施設整備事業につきましては、基本計画策定にあたって実施した仙北、中仙、太田地域の住民意向調査結果を踏まえ、地域の特性を考慮しまして、緊急性の高い地区での事業を計画しております。実施に際しては、更に住民の意見をお聴きしたうえで、現実的に内容を見極めながら進めてまいりたいと考えております。

公園の整備では、仙北ふれあい公園整備事業の（仮称）新仙北体育館の建設を進めておるところであります。

それから地域協議会委員の皆様を対象とした予算では、今年度と同様に各地域協議会委員の皆様を対象とした全体の研修を開催するほか、先進地視察などの活動を支援する活性化事業を措置しまして、さらに地域枠予算については今年度と同額を措置したところであります。地域枠予算に関連し、現在、各地域協議会と総合支所が一緒になって、「地域振興計画」の策定作業をしていただいておりますが、地域として何を重視し、どういう方向に持っていきたいのかを明確にしまして、地域枠予算の執行に反映させていただきたいと考えております。

以上、総合計画の将来都市像の実現に向けまして、住民と行政の連携・協働により、市民が安心して暮らせる郷土を未来に残してまいりたいと考えておりますので、これまで以上のご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

後藤地域振興課長

これからの進行は、会長からお願いします。

会 長

それでは会議録署名委員の指名をいたします。会議録署名委員は、大澤隆夫委員、佐藤昇委員にお願いします。

続いて、議事に入ります。議事に入る前に今日の資料ですが、資料1が平成19年度地域枠予算の事業執行状況、資料2が平成20年度地域枠予算の執行方針、資料3が仙北地域振興計画策定状況となっております。

それでは、私から地域枠予算の執行について報告させていただきます。

最初に平成19年度地域枠予算の事業執行状況についてです。

地域枠の予算は実施類型Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに分かれておりますが、事業主体が市で行う実施類型Ⅰは、No.1からNo.4までの事業となっております。

No.1の「史跡の里の秋まつり」と、「彩夏せんぼく」の際に実施したNo.2の「せんぼく歌の共演事業」については、例年地域を盛り上げるイベントとして定着してきております。

続いて、No.3の地域づくり講座実施事業については、これまで4回行って、今年3月7日に第5回目の講座を開催して、一応まとめとして開催しました事例発表会には100人余りの参加者を得て、今後の講座継続についての方向性がみえてきたように思われました。なお、この事例発表会はさいきがけ新聞にも掲載されております。

No.4の地域緊急対応措置事業については、昨年行われた国体関連の

事業として対応いたしました。わか杉国体が盛会裏に終わることができましたことに御協力をいただいた地域住民の皆様にご感謝申し上げます。

続いて、実施類型Ⅱに入ります。地域の団体と市が協働で行う実施類型Ⅱについては、No.5の地域と協働のまちづくり事業として3件実施しております。沼田会館の広場の雨水処理用側溝等設置には地元町内会から作業人員の協力をもらい市からは原材料を提供して協働作業で側溝工事を実施しております。

また、それぞれ実行委員会を設けて企画しましたルーセス・ライブコンサートには680人の入場者が、昨日2回上映しました春休み親子映画まつり事業には昼夜合わせて1100人の入場者があり、大きな反響がありました。No.6の会館駐車場等整備事業については、弥兵衛谷地と北川目の会館前の舗装整備を実施しております。

続いて、実施類型Ⅲに入ります。地域の団体が行う事業活動に対し補助金を交付するものについては、No.7の交通安全推進補助金として高梨と横堀の交通安全会にそれぞれ1万円を交付しましたが、これは今年度限りということで、補助金の見直しを行っております。

No.8の地域づくり活動団体補助金については、今年度事業申請があったもので仙北中学校創立50周年記念事業実行委員会と地域の古文書研究会の団体に、それぞれ20万円を交付しております。

予算の執行率では74%となっております。以上で平成19年度地域枠予算の事業執行状況を終わります。

次に、平成20年度地域枠予算の執行方針について説明いたします。平成20年度地域枠予算の執行方針については、基本的には19年度の執行方針を引継ぐものですが、当地域は、自主・自立の地域づくりが多く自治会にはまだまだ浸透しておらず、行政からのサービスを当然のように期待している状態です。

自治会の代表が当番制になっているところも多く、計画的な方向性をつかめないまま次年度へ引き継いでいるのが現状です。

行政といっしょになって地域の課題を引き出し、地域の将来を見据えて「自分たちに何が出来るか」という視点に立った、若いリーダーを育成していかなければ、自立している自治会と、していない自治会の格差がますます広がることが危惧されます。

以上のことから、地域の課題として一番上に示している①自主的で主体的な地域づくりに対する住民の意識改革と行政の支援策。②活気ある地域リーダーの育成をどのようにすすめていくか。ということを地域の課題に挙げました。先ほど言ったように、事業内容については、平成19年度とほぼ同様になっておりますが、特に、自主的で主体的な地域づくりやリーダー養成については、20年度も地域づくり講座などを通して、モデル的な事業の紹介や他市町村で当地域と類似した

課題に取り組んでいる自治会組織と交流することも計画しながら、地域の力を再構築できるような事業展開を目指したいと考えております。

事業内容としては、市が中心となって実施する事業については、史跡の里の秋まつりが40万円、せんぼく歌の共演事業が45万円、地域づくり講座実施事業として50万円、地域緊急対応措置事業については65万円。市民と行政の協働で行う事業では、地域と協働のまちづくり事業が150万円、会館駐車場等整備事業が90万円。ボランティア団体等活動団体への補助事業としては、地域づくり活動団体補助金は60万円。トータル500万円というふうに計画しております。

続いて、仙北地域振興計画策定状況について、ご説明します。資料3をご覧ください。

仙北地域の振興計画では、大仙市総合発展計画の基本計画体系に基づいて、大仙市において新たな地域の力を喚起し「躍進する史跡の里」として仙北地域の創造を目指したいと考えております。

地域の振興といった場合、これまでの旧仙北町が標榜していた地域づくり理念も重要な施策要素であって、やはり仙北地域は「躍進する史跡の里」というイメージが強く感じられます。

さらには、地域づくり講座でも、かつての地域コミュニティの復活などを願う意見も多く出されており、新たな地域の力のシステムづくりが必要かとも考えております。

こうしたことを背景に、今現在は大仙市総合発展計画の7つの柱を元に、市全体としての取り組み事項の中で、仙北地域としての取り組みはどうあればいいかについて、各委員がそれぞれの考えと意見をまとめている最中です。

平成20年度4月以降さまざまな問題解決手法を取り入れながら、また協議会の中でも研修しながら本年10月頃を目処に策定作業を行っていく予定です。

振興計画のイメージとしては、資料3に示した形を想定してしますが、これも今後の協議次第では修正もあるかと思えます。策定にあたっては、これまでの定例的な協議会開催とは別枠で協議会を開催することも検討しておりますので、委員の皆様にはよろしくお願ひしたいと思えます。

地域枠予算の執行状況について、駆け足で説明させていただきましたが、ここで副市長からご意見がありましたらお願ひします。

久米副市長

19年度の地域枠予算の執行状況、20年度の計画の執行方針をいま見せていただきました。やはり仙北地域は払田の柵というような史跡の里をメインテーマにした事業の取組みや活動なのかなと感じております。やはり権威ある歴史文化というものは大事にしていかなければなりませんし、また20年度にふれあい文化センターを活用したコ

ンサートや映画鑑賞会など、もっと施設を活用してやっていただきたいと考えています。

そして、地域づくり講座ということで19年度も5回開催しておりますが、このような講座をやって地域の住民の理解性を確立していくことは良いことだと思えます。それから地域づくり活動団体を支援していく中で、市としても古文書の関係については20年度から力を入れてやっていこうとしている訳で、いろいろな資料の分類など整理してもらおうことにはしておりますが、このようなことを仙北地域では前からやっておられたということで、そういう面では大仙市の中でも先駆的なところがございますので、こういう事例を参考にしまして市としてもやっていきたいと思っております。仙北地域の古文書解読の皆さんからご協力いただいて、文化財保護課がこの庁舎にありますので、そこを活用してやっていきたいと思っております。また、池田氏の庭園等もありますので昔の資料などもかなりあるということなので、それらを分析して大仙市の宝にしたいと考えています。

20年度の計画も大体19年度と同じような形で枠組みしているようなので、この後それぞれの地域から具体的な事例が出てきて予算を付けていくわけですが、先ほども申し上げましたが、地域づくり講座というものを中心にやっていただければなと思っております。それと説明では自治会の代表が当番制だという話で、毎度毎度代わるということなので、なかなか統一したやり方が浸透していかないということがあるようです。それぞれの自治会が独立し、連絡協議会などを作って仙北地域が一体となって地域づくりをやっていただきたいと思ったところです。仙北地域の各会館の駐車場の整備については、市でなかなか出来なかったことを地域枠予算でやられているようで、こういうようなことも仙北地域の特徴なのかなと思ったところです。

振興計画は20年度で策定されるということですが、いろいろな方々の意見を取り入れて、仙北地域独自の振興計画を作っていただければと思います。そうやって作った計画の中で主として予算を付けてやっていかなければならないものについては予算に反映させていきたいと思えます。そういう意味でも住民と協働のまちづくりについて我々もがんばりますので、どうかよろしくをお願いします。

会 長

ありがとうございます。小松総合政策課長をお願いします。

小松総合政策課長

今一番難しいのが自治会をどうやって育成していくかだと思えます。それぞれの地域がこれまでの歴史の中で自治会のあり方が変わってしまっております。そういう中で我々は住民との協働については自治会の皆さんにお願いしていくしかないのではないかなと思えます。将来的に今現在行政がやっている行政事務というのは段々スリム化さ

れていくと思っております。その受け皿が地域であって、さらに自治会の皆さんではないかと思っております。そういう形の中で何とか各地域の自治会について、皆さんにご難儀をおかけしますが、地域ではどのようにしたら自治会が育成できるのか検討いただければと思います。

会 長

以上で、議事を閉じます。

その他に何かありますか。

それでは6番のその他、市長への提言事項として「学童保育について」と「払田柵跡「ガイダンス」への増築について」の2つの提案事項がございます。一応、資料を読ませていただきます。

『学童保育については、対象者を1～3年生とし、利用時間が土曜日午後1時までとなっている。現在の状況では、4～6年生については対象外で一人で留守番をさせることとなり、親としては非常に不安を感じている。土曜日についても仕事の都合で利用時間内には迎えに行くことが不可能で不便を感じている。このようなことから、対象年齢の拡大と土曜日の利用時間の延長を検討していただきたい。また、毎週土曜日に公民館で行っている放課後子ども教室「キッズパーク」については、仙北地域ではふれあい文化センターを開放して、いろいろ企画していただき、子供達にも定着している。それを長期休み等にも行うことで、子供も親も安心して生活ができる地域づくりができると考えますので事業の拡大を検討していただきたい。』

この提案は小松田委員から提案されていますが、何か補足等ございますか。

小松田委員

特にありません。

会 長

私は、このキッズパークについて関連した地域子供教室実行委員会のメンバーになっています。この中にもいらっしゃいますが、キッズパークについては先般会議を行って、去年の5月12日から今年の3月1日までの実施状況では、キッズパークへの参加者数が小学生が1138名、中学生が49名、幼児が100名、大人が222名となっています。大人の方は指導員等もいますが、実施場所はすべてふれあい文化センターになっております。対象は小学生としていますが、中学生の参加者は過去において小学生のときにサタディ・キッズパークに来た子ども達が成長して中学生になって小学生を新たに指導したり教えたりして、非常に次世代の結びつきが強い事業になっています。従って、どきどき探検タイムとかに小学生や中学生の皆さんが、ものすごく関わってきていて、とても良い事業ですので是非事業の拡大をお願いします。



久米副市長

この要望の第1点の放課後児童クラブ関係についてですが、大仙市においても最近では就労形態の多様化や核家族化の進行によって、放課後児童クラブの利用者が増加している傾向にありまして、20年度に新たに2か所クラブを増設する予算を計上しているところです。原則としては、ここに書かれているとおり小学校の1年生から3年生までを対象に受入れている状況です。4年生から6年生までについては、4年生以降になりますと部活とかスポ少とかがありまして、そちらの方に行くということで低学年を中心にやっておるわけです。一部小学校4年生もいるというのが実態であります。ただ、なかなか地域によっては借りる場所とかが確保できないでいる状況にありまして、それは地域の方々と相談しながらやっているとございます。仙北地域でもやられている訳ですが、土曜日の時間の延長については、このあと分室等と協議しながら時間の拡大について検討していかなければならないのじゃないかと考えております。

それからいま会長がお話されましたキッズパークは、仙北分室の公民館事業として実施されておりました、毎週土曜日9時から12時まで開催しております。これは補助事業で実施しております、生涯学習課が窓口となって仙北分室では委託を受けて実施しております。この教室の開設は、子供の安全管理面に配慮するため安全管理員の配置が必要ですので、その予算措置をしているところです。20年度も予算的には厳しい状況ですが、19年度と同様に5月から2月まで毎週土曜日に開催する予定になっております。これの平日開催ということですが、いろいろ問題があるようです。場所の確保、子ども達の送迎の問題など考えていかなければならないし、長期の休みの関係それらいろいろ課題がありますので、それらの課題について検討しなければならぬと考えております。ただ従来どおりの開設については、継続してやっていきたいと、その中でどうしても平日にやらなければならぬとなれば、その状況に応じて考えていかなければならぬと思います。

会 長

ありがとうございました。小松田さん何かありますか。

小松田委員

仙北町当時から合併して学童保育に関しても利用しにくくなった部分がありました。そういう点で合併してすべて同じように統一しなくても、例えば大曲市内なんかは1年生から3年生の人数が多く入れない子が多いと聞いています。実際仙北の場合は、おじいちゃん、おばあちゃんと同居している子も多いので利用したい高学年生は少ないと思います。出来るのであれば必ずしも大仙市全部を統一した基準にしなくても、その地域の事情に合わせて欲しいと思います。

会 長

ありがとうございました。

久米副市長

考え方としては、ある程度基準を設けないと、確か放課後児童クラブについても補助の基準があります。

田口市民課長

定員の補助の基準ですが、70名となっております。今現在ひまわり児童クラブについては定員が30名ということでございます。

小松総合政策課長

いま現在市の施策としてやっておりますのが放課後児童クラブ、キッズパークという事業がありますけれども、20年度から新しく子育てとはどうあるべきかということについて検討したいと思っております。実は新年度予算の中に市民協働型の子育てモデル事業ということで、モデル事業ですので全部に拡大する訳にはいきませんが、いわゆる地域の自治会が自分たちの会館を使って、子育てというか子供を見守るといふ発想ができないかということです。一気に集めるといふと送迎とかいろんな問題が係わります。そういうのが邪魔してどうしても平日はやれないというような問題が出てきます。地域の自治会で身の回りで子ども達を見ていくことが出来るとすれば、もしかすると新しい子育てが出来るとはではないか。そういうことを考えまして20年度からモデル事業としていまやろうとしています。それを見ながら将来的には子育てを地域の皆さんに協力いただけるような新たな制度を大仙市として作りたいと思っておりますので、そういうことについても検討していきたいと考えております。

会 長

いずれ市から各自治会へ移管していくということですが、自治会の受入れ体制も模索していかなければならないと思います。もし、そういうことであれば早めの周知とかをしていただいて、それぞれの自治会の方が会館等の利用と合わせて子ども達を面倒みるようなことを考えていかなければならないと思いますが、20年度のモデル事業は具体的にどこの地域を考えているのでしょうか。

小松総合政策課長

神岡地域で1自治会がやろうとしています。自分たちの地域だけでなく、もう少し広い隣の自治会とか、ある程度かたまると1つの会館を使って子ども達を週に1回とか2回とか集めていろいろ交流をやろうという計画を持っています。主として3年間くらいモデル事業をやってみまして結果としてそれをやっていけるかどうか、どういう形ならやれるのか、どういう支援をすればやれるのか、そういうのを検討したいと思っております。来年からやるというのではなくて、2・3年はモデル事業でやってみて、将来的にはいまある制度だけではなくて、新しい制度をどんどん作っていかないと、なかなか地域にマッチ

したようなものは出来てこないのかなと思っています。先ほどすべてを均一にやるべきでないということですが、確かに私達もそう思っています。ただ市の制度として、ある程度条件がありますので、地域の中でどうやったら出来るかという視点からも、その辺を検討してみたいと思っていますので、何とかご理解をお願いします。

会 長

はい、ありがとうございます。何かご意見のある方いますか。

熊谷副会長

構想を聞いていてすばらしいと思いました。ただ、今現在悩んでいる方達は本当にお急ぎなんです。これが実現される頃には、子ども達が成長して、もう悩みが無くなっているのです、この事業は急いで欲しいと思います。構想的には良いなあと感心しております。

会 長

ありがとうございました。他にご意見のある方いますか。

無いようですので、なるべく早く地域の自治会の方で、そのようなものを模索して、いまから行政に頼らないでいくことも一つの方法かなと、あるいはPTAとか、各支部、各地域の中で考えていくことも必要かと思えます。

続いて、提案事項の2に入ります。

払田柵跡「ガイドンス」への増築についてです。これも読みます。『史跡の里づくり事業の進展に伴い、大仙市の国指定史跡「払田柵跡」を訪れる人も年々多くなっております。仙北町当時より町の指導・助言を得て訪れる観光客のため休憩所を兼ねた売店をガイドンス敷地内に地域の女性有志により運営してまいりました。現在、店舗については、当時のプレハブを使用しておりますが、老朽化が進み補修等でのいである状況です。また、観光客のために払田柵の案内をおこなっているボランティア団体「柵の案内人」の待ち合わせ場所や休憩所もない状況で、売店・休憩所の増築が強く要望されています。このような状況をふまえ、払田柵環境整備事業としては時代考証に基づいた建築物を構築していることなどもあり、休憩所・売店等についても景観にマッチした整備が必要ではないかと考えています。以上のことから、地域の活性化と美しく楽しい史跡の里づくりのためにも、早い機会に現在の「ガイドンス」施設に接続した休憩所・売店等の増築を検討していただきたい。』ということでございます。

ちなみに払田柵跡の総合案内所の管理運営状況は、昨年度はわか杉国体等があつて結構来館者が多くありました。19年度の来館者が13,789人、団体の利用者数が3,537人で145団体でした。柵の案内人のガイドの利用者が851人、37団体でした。当初総合案内所は月曜日休館にしておりましたが、19年度は月曜日も開館しております。その休みの分は冬期の長期休みに回しております。ト一

タルで約4万5千人から5万人程度の来館者となっております。以上で、提案事項の説明を終わります。

久米副市長

この払田の柵につきましては、昭和57年度より遺跡の公開・活用に伴う環境整備事業を進めてきておりまして、現在が第3次の環境整備計画に基づいて、今は外郭北東部地区を重点に事業を行っております。この整備を進めてきてから郷土の学習とか生涯学習の場として柵跡が活用されておりまして、散策とか憩いの場所として多くの市民に親しまれております。また、史跡の公開・活用は多くの市民の方々に支えられておりまして、特にボランティア団体であります「柵の案内人」によります観光客や学校教育行事における解説協力は利用者に変好評であります。そういうことで文化財の普及啓発に大きな力となっておりますところでございます。また、地域女性有志によります売店でございますけれども訪れました見学者からは大変親しまれて好評であります。さらに市民有志や史跡の里づくり実行委員会による払田の柵跡を会場にした夏まつり、冬まつり等の各イベントもすっかり定着しておりますところでございまして、親しみながら文化財にふれていただいているところでございます。ということで、要望がありましたガイダンス施設周辺の整備につきましては、第3次の環境整備事業の中で対応すべき課題として取り上げておるところであります。今後、市民の皆様への支援に答える意味でも積極的な活用には不可欠なものとは考えております。ただ、払田柵跡の整備は広大な整備であります。この後の整備として見学ルートや駐車場・売店・便益施設等、多分できれば休憩所も整備が必要と考えております。これらの整備を含めて全体景観を守るために周辺環境にマッチした整備が必要と思っておりますが、順次整備をしていきたいと考えております。そのため全体計画の中でのいろいろな財源確保とか国・県からの補助なども入れて何かできないかということで、今後、国・県に対する協議が必要だと考えております。これを進めるために1つずつ努力してまいります。今すぐ20年、21年度でという中ではなかなか難しいものですから、仙北地域でこれまでやってきた事業を1つ1つやっていくということになります。まず体育館を完成させなければなりませんし、池田氏庭園の洋館の改築についても継続事業で実施されておりますので、それらの進捗具合をみながら意に添うようにがんばっていきたくと思っております。

会 長

はい、ありがとうございます。ご意見のある方いらっしゃいますか。

千葉委員

市の10か年計画を見ましても最大の観光客が9万人というのが計画の中にあります。6万人、7万人、9万人という計画ですが、9万

人の観光客相手にしての売店は、売上げなどからいってボランティアの感覚で取組まないと無理だという女性達の意見です。もう1つは増設というよりは現在の建物が台風が来ますと飛ぶ恐れもあります。飛んでいって事故にでもなると大変なことになってしまうという要望と、いま1つは最高9万人の観光客を相手にするとしても売店の収入は大したことはないので農協や県の振興局からの指導で地元の野菜で道の駅化しながら経営を図っているところです。観光客というふういきちっと整理されてしまいますと守備範囲が縮小されてしまいますので、自治会などの強化とマッチさせて拡大させていただければ、もう少し経営がプラスになるのではないかという女性部の人たちの意見でした。当初70人くらいのメンバーでしたが、今21人になってしまったことの内容もそこら辺にあるかと思いますが、増設はできるだけ早めをお願いしたい訳ですが、経営的な面での安定化のためにも、経営内容がいくらかでも良くなりたいたいという欲も出てきて、その点もご理解いただいてご検討いただければ幸いです。

会 長

いずれこの地域協議会で検討する課題も多くあると思います。それと市からの力添えも必要な部分もあると考えます。とりあえず屋根の修繕については現在行っておりますので、その点はよいかと思いますが、20年度には文化財保護課と相談しまして、なるべく早期に話を詰めたいと思います。

久米副市長

直売所や売店は、観光客だけでなく、すぐ道路にも面していますので、観光客も含めて売店のボランティアの方々は農家の方々かと思えますので、直売所も兼ねたような形で拡大して流動的に考えてもいいのではないかなと思います。それと台風が来て飛ぶということになれば、例えば、この地域枠予算で補修とか、飛ばないようにすることは必要なかなと考えます。そして、あの場所ですとやってきているでしょうから、幟旗を作って払田の柵跡直売所という形でやってもいいでしょうし、そこら辺は発想をいろいろ考えてやっていけるのではないかなと思います。市の方では、これをやっては駄目だというようなことは言わないと思いますので、景観等のことはあるかとは思いますが文化財保護課の方とも、また支所の方とも協議しながら有効にあれを活用しながらお客さんに来てもらえるようにしていただきたいと思います。

会 長

はい、ありがとうございます。

熊谷参事

いま千葉さんから意見が出ましたが、1つは、いま話した状況の中で早急にできないのかということだと思います。いまお話を伺いまし

たので、払田の柵につきましては、大仙市としても仙北地域にとっても大変重要な史跡として理解しております。今後の運営の仕方については、運営をしていただいている方々と柵の案内人の方々、それから文化財保護課の方と景観も協議しながら、余りお金のかからない形で現在のものを使用しながら行っていくというのも1つの方法でないかなと思います。

小松総合政策課長

柵の案内人の方々には大変ご迷惑をおかけしています。正直言って休憩場所もない状態で、確かに必要な施設だと我々も思います。いまの景観にマッチしていないものが、あそこにあります。ただ如何せん、財政状況が非常に厳しい中で何が優先されるかということで、なかなかそちらまで財源が回らないという実状があります。何か上手い方法で補助金とかいろいろ持ってきてやれるとすれば出来るだけ早めに何とかしなければいけないと思います。折角、あれだけ整備しながらプレハブがあるというのは重々感じております。

会 長

地域枠の中で対応できる部分が多くあると思いますので、今後の検討課題にいたしたいと思います。ご理解をお願いします。

池田（佐）委員

建物を建てるとすれば予算が多くかかる訳ですので、いま早急にというのは無理だと思います。ただ私達があそこに行ってみて、私も柵の案内人の一人ですが、売店はあの場所ではとにかくうまくないと思います。お客さんがいらしても、わざわざ用がなければ、あそこには行かない状況です。他の観光地ですと目的地とバスとの途中に売店がありますので、その方が売上げがよいと思います。しかもプレハブですので景観的にも良くないということで、婦人部の人達からこういう意見があるということで千葉さんから提案された訳ですが、ガイドンスのところに売店を付随する形でお願いしたいということでしたので、案内人の休憩場所もお願いしたいという要望でございました。案内人が10時からの約束で行っても11時に来たりします。そういう場合に待っている場所もない状況です。予算が伴うとすれば売店もそうですし案内人の休憩場所も兼ねたものを出来るだけ早く建てていただきたいと思います。

会 長

他になれば、第5回仙北地域協議会を終わります。

この会議録の記載が真正であることを保証するためここに署名する。

仙北地域協議会署名委員

-----

仙北地域協議会署名委員

-----